

個別施策

- C6-1 安定した水産資源の管理・回復を図ります
- C6-2 やる気、収益性アップの経営体づくりを進めます

ア 施策の目的

水産業者が、安全・安心で新鮮な水産物を安定的に供給し、経営が安定している

イ 基本施策の評価

D c 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

| 指標名                                     | 基準値<br>(時期)       | 区分    | H28    | H29    | H30    | R1     | R2    | R3    |
|---|-------------------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 沿岸漁業者1人あたりの漁業生産額                        | 6,599千円<br>(26年度) | ↑ 目標値 | 6,995  | 7,193  | 7,391  | 7,589  | 7,787 | 7,984 |
|   |                   | 実績値   | 7,835  | 8,182  | 8,854  | 7,784  | 6,800 | 7,134 |
|   |                   | 達成率   | 112.0% | 113.7% | 119.8% | 102.6% | 87.3% | 89.4% |
| 長崎市内で売られている水産物について新鮮さ、品数、価格に満足している市民の割合 | 84.1%<br>(26年度)   | ↑ 目標値 | 84.8   | 85.1   | 85.5   | 85.8   | 86.1  | 86.1  |
|   |                   | 実績値   | 82.4   | 81.2   | 80.7   | 82.3   | 82.7  | 77.6  |
|   |                   | 達成率   | 97.2%  | 95.4%  | 94.4%  | 95.9%  | 96.1% | 90.1% |

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

なし

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- (1) 「出島ばらいろ」や「なつたより」のブランドは浸透してきており、かなりの方に認知されてきたが、魚で長崎市内産のブランドはないと思う。ブランド化は地道でかなりの時間がかかるが、SDGs に対する関心の高まりから、地産地消に対するニーズも非常に高まっているので、地産地消を推進するうえでも、この魚は長崎市の漁協で取り扱った魚であると消費者がわかるようなブランド化を進めていただきたい。
- (2) 「養殖魚の生産量」が減少する中、生産コストの増加や漁場環境改善などに養殖業者の方が大変努力されているのは理解するが、養殖業者の経営安定や地産地消を推進するためにも、養殖魚の生産拡大に向けた指導をお願いしたい。

(3)長崎かんぼこの認知度が十分に浸透していないと記載されているが、10 年前からずっと言われ続けている。C 6 の 3 ページに「事業者に対して新商品開発のロールモデルの普及などを行う」と記載されているので、そのようなことも含めて長崎かんぼこの認知度向上に向けて迅速に取り組んでいただきたい。